

平成国際大学 vs 日本大学

5月18日(日)
11:30K.O.
上柚木

前節、4得点を記録したチーム同士の対戦。それでも、平国大は敗戦、日大は引き分けだった。今節も12位と11位の対戦となり、熱戦は必至だ。

平国大は前節、11位の産能大に4-6で敗れてしまった。1試合での複数失点を繰り返していた今季、第7節でようやく無失点試合を達成した矢先の試合で、前半だけで4失点を喫した試合展開に、西川誠太監督は「情けないの一言。今季は踏ん張りがきかない。ズルズルと3~4失点もしてしまう」と嘆いた。4点というビハインドを背負いながらも、後半から反撃態勢に転じて得点を重ねたのは評価できるが、1点を返した2分後、さらにその3分後と失点を重ねたのは大きな課題。最下位ながらFW星子直哉(3年)が得点ランキングトップに躍り出るなど得点力を持っているだけに、いかに失点を少なく抑えるかがポイントだ。

対する日大も前節、法大から4点を奪った。シーソーゲームの2-2から2点を勝ち越されながら、後半アディショナルタイムに2点を入れてドローに持ち込んだことを考えれば「もぎ取った」勝点1とも言えるが、失点の多さは課題だ。川津博一監督も「前半から気持ちが前面に出たプレーが90分できた。最低限のことはできた

ゲーム」と部分的には評価しつつ、技術的な部分については課題も多いと話した。序盤戦は失点が少なかったが、勝てない試合が続く、リスクを冒しても攻撃せざるを得なくなったところで失点が増えている。攻守のバランスがまだ安定していないが、FW中野春樹(4年)が得点ランキングに顔を出すなど、得点感覚が見えてきたのは光明だ。下位同士の戦いで勝利をつかめるのか。

<3回警告>小松崎雄太(平国大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

平国大		日大	
3. 深井	15. 堀越	43. 高山	5. 鈴木
2. 増田	5. 鎌田	11. 齋藤	3. 奥村
21. 馬屋原	34. 押山	10. 小林	1. 谷
	9. 星子	38. 田中	
	17. 尾林	13. 中野	4. 高橋
	27. 高島	14. 成瀬	36. 川島
	29. 木曾		
13. 竹内			

東京農業大学 vs 拓殖大学

5月18日(日)
13:50K.O.
上柚木

前節、無得点で敗れてしまったチーム同士の対戦。順位が近く、残り3試合での追い上げに向け、こちらも拮抗した試合になりそうだ。

東農大は前節、東洋大に0-1と惜敗した。失点は立ち上がりの3分。東洋大の攻撃に対応する間もなく失った1点を、最後まで取り返すことができなかった。なかなか勝手に恵まれない東洋大が守備を徹底してきたこともあり、先に得点を許してしまった時点で相手の術中にはまり、この試合の大勢が決まってしまったと言える。得意のショートカウンターから反撃は見せたが、バイタルエリアにはなかなか侵入できず、1点を守る意識が高く、隙の見えない東洋大の守備を崩すことはできなかった。「うちは少ないチャンスを生かしていかない」と(木村俊夫コーチ)。これで2試合、無得点での敗戦。試合の入り方に注意し、先制点を狙っていききたい。

一方の拓大は前節、東学大に0-3で敗れた。5試合ぶりの敗戦は、同じく5試合ぶりの無得点。こちらも、連敗中の東学大に先制点を与えてしまったことで相手を波に乗せてしまい、しかも先制から2分後に2点目を奪われたことが致命傷となった。「すぐに2失点目を許してしまったのが良くなかった。しかし何とか持ち直そう

と選手一人ひとり気持ちを持ってプレーしていた」(川田尚弘コーチ)。序盤戦のように、1失点で下を向いてしまうようなことはなくなったが、東学大には気迫で押された部分があったのも確か。序盤の不振は脱し、順位も上げたものの、連勝中の良い流れを手放さぬよう引き続き勝利への執念を見せたい。

<3回警告>金裕志(東農大)、谷川貴也・多田和明(拓大)
<昨年の対戦>前期/東農大2-0拓大、後期/東農大2-1拓大

東農大		拓大	
3. 加藤	29. 村山	24. 多田	2. 谷川
5. 櫻岡	25. 金	11. 西岡	6. 紙谷
1. 矢口	14. 石川	27. 森川	
	9. 相川	21. 佐川	
	7. 和気	31. 宗像	
	15. 小田原	18. 沼倉	13. 三浦
	8. 佐々木	16. 大森	26. 新山
2. 中西			

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.9
編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



乱戦の8節、上位は足踏み!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグの第8節は、大量得点の入る乱戦が相次いだ。まず、1日目に2位の関学大が青学大に1-4での大敗。連敗中の東学大は拓大を3-0で下した。2日目は、3位の法大がアディショナルタイムの2失点で10位の日大と4-4で引き分け、11-12位対決の産能大と平国大は6-4で産能大に軍配。一方で、首位・神大と4位・日体大の試合はスコアレスドロー、東洋大と東農大の試合は1-0で東洋大が勝利した。

この結果、上位4チームに勝利がなく足踏みとなり、下位チームも得点力を発揮して追い上げを始めた。各チームとも前期のラスト

得点ランキング		アシストランキング	
6: 星子 直哉 (平国大)	5: 中村 瞬 (関学大)	4: 伊東純也 (神大)	3: 上田次郎 (産能大)
4: 高木伊東 純也 (神大)	木村 魁人 (関学大)	3: 太田一輝 (関学大)	上沼 優聖 (関学大)
岡村 洋也 (産能大)		菅光院 賢誠 (関学大)	平土 直人 (日体大)
		桂 啓人 (東洋大)	石直 啓人 (東洋大)
		仙頭 大森 (拓大)	大森 勇希 (拓大)

スパートを目論みエンジン全開といった様で、面白い終盤戦となりそうだ。なお、今後2試合の後は、アミノバイタル杯をはさみリーグ戦は一旦中断する。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第8節終了時)

順位	2部	神大	関学大	法大	日体大	東洋大	東学大	青学大	拓大	東農大	産能大	日大	平国大	勝数	負数	点数	得点	失点	勝差
1	神大		6/15	5/25	0△0	5/18	3○1	2△2	4○0	3○0	4○0	1○0	5○3	6	0	22	6	16	20
2	関学大	日体大G		5/17	5/25	1●2	3○0	1●4	2○0	2○1	3△3	4○2	5○0	5	2	21	12	9	16
3	法大	東洋大G	青学大G		0△0	2○0	6/14	2△2	3○0	1○0	2△2	4△4	0△0	3	0	14	8	6	14
4	日体大	0△0	BMWス	0△0		6/15	1○0	5/17	0●2	1△1	4○1	0△0	2○1	3	1	4	8	5	13
5	東洋大	たつのこ	2○1	0●2	日体大G		0●1	5/25	0●2	1○0	4○0	0●1	3○2	4	4	0	10	9	12
6	東学大	1●3	0●3	法大G	0●1	1○0		2○0	3○0	0●1	5/17	5/25	3○2	4	4	0	10	10	12
7	青学大	2△2	4○1	2△2	青学大G	東洋大G	0●2		3△3	6/14	0●1	2○1	1△1	2	2	4	14	13	10
8	拓大	0●4	0●2	0●3	2○0	2○0	0●3	3△3		5/18	5/25	2○0	6/14	3	4	1	9	15	-6
9	東農大	0●3	1●2	0●1	1△1	0●1	1○0	法大G	上柚木		5○0	1△1	5/24	2	4	2	9	9	8
10	産能大	0●4	3△3	2△2	1●4	0●4	ゼットエー	1○0	産能大G	0●5		6/14	6○4	2	4	2	13	26	-13
11	日大	0●1	2●4	4△4	0△0	1○0	産能大G	1●2	0●2	1△1	産能大G		5/18	1	4	3	9	14	-5
12	平国大	3●5	0●5	0△0	1●2	2●3	2●3	1△1	産能大G	千葉東総	4●6	上柚木		0	6	2	13	25	-12

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています*

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント
自分を超えて、進もう。
部活と就活にメールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
リクナビ 体育会



関東学院大学 vs 法政大学

5月17日(土)
11:30K.O.
青学大G

2位と3位の注目の対戦。関学大が法大に今季初の黒星をつけるか、法大が勝って順位を逆転するか。

関学大は前節、青学大に4点を奪われ、今季2敗目を喫した。試合開始8分という早い時間帯に先制点を許し、前半のアディショナルタイムにも失点。石村大監督が「球際の厳しさや出足の早さなど、この試合に賭ける気持ちの差が出てしまった印象」と話したように、勝星から遠ざかっている青学大の気迫に押されて後半も失点を重ねた。少しでも隙を見れば、得点力のある青学大が相手であり、慎重さに欠けたのは確かと言えるだろう。さらに、相手の攻撃に押されてシュートも3本に抑えられた。4失点は今季最多で、今節も攻撃力ではリーグ1・2を争う法大が相手だけに、もう一度守備面を見直し、連敗を避けるべく戦いたい。「ひたむきにプレーするという原点に戻ってやっていきたい」(石村監督)。

一方の法大だが、前節は日大と4-4という乱戦の末の引き分け。これで4試合連続引き分けとなり、敗戦はないものの、下位チームとの引き分けの多さはもったいないと言わざるを得ない。日大には先制されながらも相手にプレッシャーをかわして逆転、追い付かれてもまた2点を勝ち越したが、後半アディショナルタイムに

追い付かれ、長山一也監督も「悔しいの一言。試合の終わらせ方に強さが無い」と嘆いた。今季は失点が少なかったが、この日は今季初の大量失点。それでも、うち2点はセットプレーでの失点だっただけに、再確認して残り3試合の上位陣との対決に臨みたい。「チャレンジャーの立場で勝ちにいききたい」(長山監督)。

<3回警告>西室隆規・青島拓馬(法大)
<昨年の対戦>前期/関学大2-1法大、後期/関学大1-3法大

関学大	法大
25. 亀井	6. 星
11. 中村	8. 三田
4. 久保	9. 富樫
7. 太田	3. 宗近
10. 土館	25. 西室
1. 井田	9. 相馬
7. 太田	18. 鈴木
10. 土館	21. 富澤
3. 原島	26. 伊藤
33. 萱沼	22. 田代
32. 木村	16. 青島
34. 山口	2. 永戸

東京学芸大学 vs 産業能率大学

5月17日(土)
11:30K.O.
ゼットエー

連敗を3で止めた東学大と、2連勝を飾った産能大との対戦。どちらも、残り3試合に良いムードを持ち込みたい。

久々の勝利を手にした東学大。前節は好調の拓大に3-0で快勝した。「今までできていなかった、連動性のある攻撃ができた。これを続けていきたい」と檜山康監督が話したように、立ち上がりから前線の選手が積極的に動いてボールを引き出し、前半に2点を先制した。ここ3試合で1得点にとどまっていただけに、先制点はチームの大きな力となったはずだ。特に、1得点1アシストのMF佐々木陽次(4年)の動きと、高い位置でプレーしたMF久保優斗(4年)のハードワークが光った。攻撃で主導権を握り、拓大にはシュートを3本しか打たせない完勝となったが、今節は攻撃で勢いを増しつつある産能大が相手。気を緩めることなく、連勝なるか。

その産能大は前節、平国大と戦い、6-4で勝ち切った。乱戦であり、加藤望監督は「やるべきことは全てできていなかった。勝点3を取れたというだけ」と厳しいコメントを残したが、前半だけで4点を先行するという試合展開は、選手にとっては自信になったことだろう。そして、後半1点を返された直後に、畳みかけるように

2点を追加した。試合終盤に3点を追い上げられたことは確かに課題だが、結果としてはこれで2連勝、3試合負けなしとなり、順位も1つ上げた。失点の多い試合が続いているものの、得点力が上がってきたことは、まず残留を目指す今季の戦いを考えれば明るい兆しだ。前期でどこまで勝点を伸ばせるか。

<出場停止>浜下瑛(産能大) / 3回警告:永井雄介(東学大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大	産能大
2. 吉田	25. 渡辺
16. 富澤	11. 青木
3. 久司	4. 楠元
8. 菅	36. 須永
11. 五十嵐	37. 見留
1. 須賀	34. 越智
14. 平田	7. 小池
4. 脇本	18. 久保
10. 佐々木	6. 遠藤
5. 廣木	17. 岡村
	32. 上長

日本体育大学 vs 青山学院大学

5月17日(土)
13:50K.O.
青学大G

今季、引き分けの多いチーム同士の対戦。得点力では青学大が上回っているが、失点の少なさではリーグ最少の日体大が一枚上。どちらに軍配が上がるか。

その日体大は前節、首位の神大と対戦してスコアレスドローに終わった。平均得点が3点を上回る神大の爆発的な攻撃力に対して、守備の意識を徹底。今季初めて、神大を無得点に抑えた。しかし、攻撃面ではカウンターから相手ゴール前に迫るも、暑さと守備での消耗から決定的なチャンスをつくり出すことができず、最後はリスクを冒さず勝点1を取ることに切り替えた。「どこかで勝負しようとしたが…ずっと押されていつ失点してもおかしくない状況だったので、最後は引き分けで良しと割り切った」(倉又寿雄監督)。最低限の結果を得るにとどまったが、今季初出場のMF輪笠祐士(1年)の安定したプレーなど収穫もあっただけに、今節のゲームは勝点3という結果につなげたい。

一方の青学大は前節、2位の関学大を4-1で破り、6試合ぶりの勝利を手にした。前半から気迫で相手を上回って2点を先制すると、後半も攻撃の手を緩めず追加点を奪い、好調の関学大の反撃をシュート3本の1点にとどめた。「今季で一番、やりたいことが出せた試合だ

った。ケガ人が増えてメンバーも変えたが、新しい選手が責任を果たしてくれた」(宮崎純一監督)。しかし、今季はこれようやく2勝目。昇格争いを目論んだものの、勝ち切れない試合が続いただけに、残り3試合でできる限り上位を追い上げていきたいところ。攻撃の良いイメージを持ち込みつつ、集中力と運動量を落とさず戦えるか。

<3回警告>阿部潤(日体大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大	青学大
2. 高野	2. 堤
10. 阿部	7. 荒木
13. 増谷	5. 京谷
23. 小泉	14. 伊藤
14. 藤井	10. 関谷
1. 伊藤	1. 高橋
18. 川戸	27. 角宮
33. 輪笠	33. 山田
20. 高野	3. 御牧
11. 小山	11. 恵
6. 赤平	17. 諸井

東洋大学 vs 神奈川大学

5月18日(日)
11:30K.O.
たつこの

星を五分に戻した東洋大と、今季2度目の引き分けで連勝が途切れた神大との対戦。順位を一つ上げた昨季1部の東洋大が、首位の神大にどう挑むか。

その東洋大は前節、東農大と対戦して1-0で勝利し、今季4勝目を挙げた。立ち上がりの3分にサイド攻撃から先制点を奪い、そのまま逃げ切った形だ。今季は先制点を奪われる試合が多く、「決して多くはないピンチで簡単に失点して落としたゲームが多かった」(古川毅監督)ことから、この日は先に点を取ることを意識して臨んでおり、まさに狙い通りの展開となった。さらに、得点のあとはしっかりと守備を徹底する慎重な試合運びを見せ、東農大の攻撃陣に決定的なチャンスをつくらせなかった。追加点を奪いに行くよりは、1点を守り切って勝点3を積み上げるという最大の目的を達成した。早くも前期は残り3試合だけに、「少しでも上位と差を詰めていきたい」(古川監督)。

対する神大は前節、日体大と対戦してスコアレスドローに終わった。開幕から爆発的な攻撃力を見せてきた神大は、1試合を通して無得点に抑えられたのは今季初。「ここまで引いてくるとは予想していなかった」と松永道敬総監督が話したように、ボールを持つシーンは多か

ったものの、日体大の徹底した守備を崩すことができないまま90分を終えた。シュートも6本にとどまり、「もう少し攻めたかった」(松永総監督)というところだが、それでも攻撃一辺倒にならず、MF武田将平(2年)を中心に相手の攻撃の芽を早めにつぶし、守備面で相手に隙を見せることはなかった。今節も守備の堅い東洋大だが、ゴールをこじ開けることはできるか。

<3回警告>小山大貴(東洋大)、南祥巧(神大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大	神大
3. 筑井	7. 長野
10. 平石	11. 星
24. 池田	5. 杉山
15. 小山	6. 前田
7. 斉藤	10. 伊東
18. 遊馬	14. 芦野
1. 浅沼	12. 黒沢
13. 郡司	16. 武田
4. 郡司	4. 藤原
28. 仙頭	18. 斎藤
16. 石坂	3. 高木